

報 告 書

2020年8月12日

活動実施団体名：公益財団法人高知県牧野記念財団

責任者名：理事長 水上 元

報告書作成者名：植物研究課長 藤川 和美

研究調査員 橋本 季正、主任 田邊 由紀

1. 活動の名称 公益財団法人藤原ナチュラルヒストリー振興財団設立40周年記念事業

植物分類学セミナー 「植物調査のやり方 (初級) ①初めての調査 ②初めての標本づくり」

高知県の生物多様性を保全するための基礎となる、植物相（フロラ）調査、貴重種調査や外来植物調査などのさまざまな野外調査に協働する植物調査ボランティアをやってみたくて思っている初心者を対象に、調査の基本から学んでいただけるプログラムを提供した。

2. 実施日 2020年7月23日（木・祝）

①初めての調査 10:00～12:00 ②初めての標本づくり 13:00～15:00

3. 実施場所 高知市五台山4200-6高知県立牧野植物園 映像ホール・園内

4. プログラム等

①初めての調査 10:00～12:00

・講義 講師：鴻上 泰

・実習 講師 1班：鴻上 2班：前田 綾子 3班：藤川 和美 4班：橋本 季正

②初めての標本づくり 13:00～15:00

・講義 講師：田邊 由紀

・牧野植物園標本庫（MBK）見学 講師：新谷 直子

・実習 講師 1班：田邊、鴻上 2班：前田、新谷

5. 対象・参加人数

①初めての調査 20名(高校生1名，一般19名)

②初めての標本づくり 17名(高校生1名，一般16名)

6. 活動の内容・状況

各活動においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をとり、活動においてソーシャルディスタンスを確保し、実習では講師1人に対し参加者5人に班分けをした。

① 初めての調査 10:00～12:00

講義では、野外調査の目的と調査方法の流れ、植物誌編纂のためのデータの取り方、調査中の注意事項等を説明し、実習では、フィールドノートの書き方を中心に、写真の撮り方、観察の方法とルーペの使い方などの基礎を実地で学ぶ機会とした。フィールドノートの書き方では、予めフォーマット（用紙）を準備し、チェック方式にすることで観察ポイントを知る手がかりとするなど実習方法を工夫した。採集地点データ、緯度経度や標高のスマートフォンを用いた取得方法などを詳しく解説。配布したルーペの



写真1. 講義のようす



写真2. フィールドノートの書き方野外実習

取り扱い方に戸惑う方もいたが、実習時間内で繰り返し使って観察することにより、ほぼ全員が習得したと思われる。少人数制であったことで、その都度参加者の質問に答えることができた。

② 初めての標本づくり 13:00～15:00

講義では、標本をつくる目的、つくり方の流れや作製のポイント、採集にあたっての注意事項等を説明した。標本庫見学では、標本庫の業務や役割、標本を採集した後に、標本を乾燥させ、収集したデータから標本ラベルを作成し、標本庫に収蔵されるまでの過程を解説した。また、高知県やミャンマーで採集された標本がどのように活用されているか、その意義について紹介した。実習では、参加者がそれぞれ標本を2点採集し、仮押しと押し直し（整形）を体験した。今回の講座では、標本の意義と採集から作製の一連の流れを知り、質の高い標本を一人でも作製できるようになる機会とした。

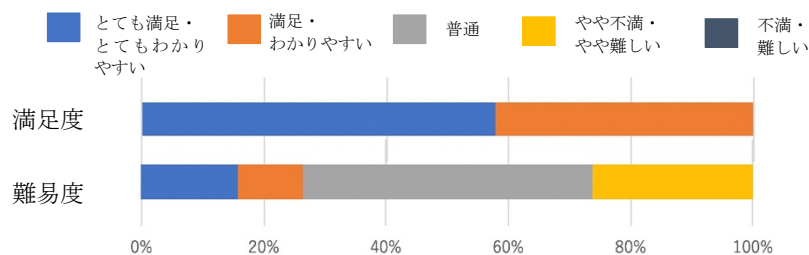


写真3. 標本づくり実習

7. アンケート・感想

参加者は、①②ともに参加16名、①のみ4名、②のみ1名、合計21名であった。このうちアンケートには19名が回答した。アンケートではセミナーの満足度、難易度について5段階で尋ね、また、植物調査とボランティアとしての参加意欲を質問した。

(男女比：男8名：女11名、年代別内訳：10代1名、20代2名、30代1名、40代3名、50代2名、60代6名、70代4名)



セミナーの満足度は高く、全員が大変満足または満足し、内容が不満だった参加者はいなかった。一方で、セミナーの難易度では約25%がやや難しいと回答した。参加者からの感想から、「説明が分かりやすく補助もやさしく教えてくださいましたが、初めてだったので慣れることが大事と思った」や「基礎知識がまったくないので・・・」、「ついていけるかどうか不安」など、初心者ならではの戸惑いが聞かれた。予測はしていたが参加者の不安を解消するには、今後も繰り返し体験し、不安を楽しみに変えていくセミナーの開催が必要であると思われた。

参加意欲では、植物調査には全員が参加したいと回答し、調査ボランティアへの参加意欲では1名が不安であるため参加したくないと回答したが、ほか全員が参加したいと回答した。「野外に出て実地で教えてもらい、わかりやすかった」、「講義がよかった」や「非常に勉強になりました」といった感想が聞かれた。

実施団体は、生物多様性の保全に向けてその基礎となる野外調査に協働する、植物調査ボランティアの養成を目的としたパラタクソノミスト養成講座を5回/年開催している。今回初めての“初めて”分類学セミナーを開催したことは、野外調査をやってみたいと思う方への参加意欲を促す機会となり、地域の環境保全活動に参加する「はじめの一步」を踏み出すためのきっかけづくりとなったと考えられる。